

# こうほう ショッキング

Vol.60

Kōhō shocking



まつもと へいじ  
松本平治さん

## ●プロフィール

55歳。蔵原町上槻出身、在住。二男一女の長男として生まれる。地元の中学校を卒業後、農業を学ぶため長崎県立大村園芸高等学校へ進学。卒業後は実家へ戻り、家族と共に農林業を営む。また消防団や、密航監視哨員として地元での活動にも取り組んでいる。母と妻、息子との4人暮らし。

### ○家業の農林業を継いだのは？

私の父は、私が10歳の時に亡くなったので、物心がついた頃には家族の手伝いをしていました。長男に生まれて、実家を継ぐのは自然なことでした。家業のことを教えてくれるのはもっぱら祖父でした。上槻地区のだいたいの家庭もそうだと思いますが、うちも半農半漁。米作りや椎茸栽培、林業をしつつ素潜りでさざえやアワビを獲っています。

### ○実家を離れての高校生活はいかがでしたか？

寮生活を経験したのですが、入った頃は先輩に使われましたね(笑)。でも、自分が上級生になつたら、今度は自分がされたように下級生に…、というのはありませんでした。高校生活で長崎市内をはじめ五島や吉岐・島原の方まで友達ができました。今でも電話で話したりしています。振り返れば、人生の貴重な時間になりました。

### ○農業や漁業を続ける中で気づく変化はありますか？

米は、品種の改良などで品質も良くなっているようで、安定

していると思います。以前と比べて厳しくなってきたのは、椎茸でしょうか。品質は良いのに、ピーク時に比べて単価がずいぶん下がってしまっているようです。

海は、素潜りをするのでよく分かりますが、磯焼けで餌になる海藻が少なく、漁も少ないです。囲いをして藻場再生への努力はされていますが、囲いのない場所は、生えてくれば魚が食べてしまっていて、全体的にはなかなか改善していかないように思います。かじめやひじきなどが獲れないので、昔のように食べられないのも残念です。

### ○食の一番基本の部分に携わり続けるのは？

気が付けばこれが家族の生活だった、という感じ。続けているのは自然な事だと思います。昔からこの生活ですから、買って食べようという気はないですね。これからも自分たちで作った野菜や米を食べたいです。自分の生活に見合った量を、家族で作れるだけ作って食べる。自給自足が基本だと思います。

### ○地域でもご活躍ですが、密航監視哨員とは？

久根浜や佐須・豆酸など各地区に数名いて、沿岸線の警戒をします。「哨」とは見張りという意味で、密入国や密出国・密貿易など監視する国の制度。何もないに越したことはないですが、四方を海で囲まれた国境の島ならではの働きですね。

### ○対馬市誕生10年を迎えました。が、これまでとこれからの10年は？

合併当初は、どうなっていくのが見えなくて不安でしたが、道路や港も良くなってきたし、山の仕事も盛んになりましたね。これからまだまだ良くなれば…、とも思いますが、それも欲しくないか。でもやっぱり良くなつてほしいですね。上槻地区は救急車の到着にも時間がかかりますから、特に道路網は期待したいですし、緊急医療体制の充実も期待したいです。

毎回、登場してくださった方に次の方をご紹介いたたくこのコーナー。次回は蔵原町小茂田にお住まいの吉田永さんです。お楽しみに。